

## 【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

学校名	太良町立多良中学校													
評価結果の概要	<p>前年度の重点目標は、①「学ぶことの楽しさ」を感じる、魅力ある・わかる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切にし、将来の夢の実現を育む。③道徳を中心とした教育活動全般を通して、規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。の3点であった。すべての項目においてA~Bの達成度を得ており、おおむね目標達成ができたとの評価結果であった。</p>													
学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成													
本年度の重点目標	<p>1 魅力ある・分かる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。 2 自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切にし、将来の夢の実現を育む。 3 道徳を中心とした教育活動全般を通して規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。</p>													
重点取組内容・成果指標	中間評価	最終評価												
(1)共通評価項目														
評価項目	重点取組	具体的な取組	中間評価 達成度 (評価)	最終評価 達成度 (評価)	実施結果									
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師数80%以上を目指す。 ●生徒意識調査で「一人一人に分かりやすく教えてもらっている」の回答率90%以上を目指す。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・TTによる授業を行い、困り感を持つ生徒の支援を行う。	B	B	・マイプランの成果については、今後のアンケートで達成状況を確認する。 ・「一人一人に分かりやすく教えてもらっている」に対し、肯定的な回答をして生徒が85%、保護者が89.7%であった。TT授業を校にわかる授業をさらに浸透し、目標達成が果たしていく。								
	●心の教育	○学習環境づくり	○意識調査で「どの授業も落ち着いて学習ができる」という回答が93%以上を目指す。 ○意識調査で、家庭学習の充実度に対する生徒・保護者のプラス評価70%以上を目指す。	・学年掲示スペースの活用。各教室の学習環境整備を図る。 ・「家庭学習のすすめ」を家庭学習の習慣化に取り組む。生徒自身が主導するノートの活用法や学習票を提示する。	A	A	・「どの授業も落ち着いて学習ができる」と対し、肯定的な回答をしている生徒が90%、保護者が86.9%であり、現時点では目標に到達していない。教室の環境作成はかりでなく、指導方法の工夫を伴った抜本的な改革を目標にしていく。 ・家庭学習の充実度に対し、肯定的な回答をしている生徒が91.2%、保護者が93.3%で現時点では目標に到達している。							
		●健康・体づくり	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他人の思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○意識調査で、心の教育に対する生徒・保護者のプラス評価が93%以上を目指す。	・全職員で道徳の授業に取組み、生徒の心の変容を教職員で見取ることでできている。 ・意識調査で「心の教育に努めている」と肯定的に受け止めている生徒は92.5%、保護者は92.5%。教職員は94.1%であった。今後も学生通信や学級運営を通じて保護者へ発信しながら、学校全体で「心の教育」を取り組んでいく。	A	A	・担任を中心として道徳の授業が計画的に取り組んでもらう。次年度も向け、学習規則について改定されると同時に、保護者が大変認識を抱く授業を進めしていく。また、タブレットを活用した授業に向けて研修を積みたい。						
			●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的な対応ができるよう回答した教員90%以上を目指す。	・生活アンケートを月1回実施し、情報共有しながら予防措置を実施。生徒の学生活の状況を客観的、個別的に把握することで保護生徒に対して日常的な連絡を行なう。 ・連絡の適切さと密に連絡を行なうことで、小さな情報を集め、連絡を強化する。	A	B	・月1回の生活アンケートやいじめに特化したアンケートも適切だ。いじめの早期発見、早期対応に努めている。しかし、8%の保護者がいじめの未然防止に対して否定的な意見をあり、来年度の課題である。 ・Q1アンケートを回収実施し、生徒全員の状況把握と個々の生徒のセイスマントにかかずことができる。連絡や連絡の頻度を増やすことで目標達成ができる。					
				●家庭・地域と連携した「開かれた学校づくり」のための工夫・改善	○生徒が夢や希望を持ち、その実現に向けて意欲的に取組もうとするための教育活動	○教育活動等を通して、自らの夢や目標に向かう感覚、自信・継続性、織入して目標を持つ行動を育む。 ○意識調査で「自分には良いところがある」とのプラス評価90%以上を目指す。	・生徒会正統・福祉部会・理場体験・修学旅行等での体験学習、自主研修等を通して、体験活動を充実させる。 ・キャリアパスポートを活用した計画的、継続的な進路学習に取組む。	A	A	・「月1回の生活アンケートやいじめに特化したアンケートも適切だ。いじめの早期発見、早期対応に努めている。しかし、8%の保護者がいじめの未然防止に対して否定的な意見をあり、来年度の課題である。 ・Q1アンケートを回収実施し、生徒全員の状況把握と個々の生徒のセイスマントにかかずことができる。連絡や連絡の頻度を増やすことで目標達成ができる。				
					●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●運動習慣の改善や定着化」「望ましい生活習慣の形成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間に20分以上以上の生徒70%以上を目指す。 ②健食意識の調査項目で、生徒・保護者に対する評価指標に関するプラス評価85%以上を目指す。	・休み休みに運動場を開放し、積極的に運動に参加する生徒を増やす。部活動への参加を推進する。 ・運動室等の設備等に健常維持・増進に関する情報発信の充実を図る。	A	A	・Q1では運動習慣の改善や定着化は達成できている。しかし、8%の保護者が運動習慣を充実しているのに問題に感じていて、運動習慣解説し、会員登録・指導者登録を行なった。しかし、8%の保護者がいじめの未然防止に対して否定的な意見をあり、来年度の課題である。			
						●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健食に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上を目指す。	・主に給食時間を利用し、生徒自身が望ましい食習慣をつけるようとする意欲の醸成につなげる。	A	A	・Q1では運動習慣の改善や定着化は達成できている。しかし、8%の保護者が運動習慣を充実しているのに問題に感じていて、運動習慣解説し、会員登録・指導者登録を行なった。しかし、8%の保護者がいじめの未然防止に対して否定的な意見をあり、来年度の課題である。		
							●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を「定期退勤日」とし、行事黒板に掲載するなどして時間外勤務時間の削減は実現した。 ・運送事業は「スクールネット」「テレビモニター」を活用して、連絡事務を行なったことで、会議時間を短縮した。	A	A	・毎週水曜日の定期退勤日についているしたたかの運送事業は、運送事業の運送時間に削減に対する意識は醸成されていない。 ・運送委員会議について細かい運送の場所で検討したこととで運送委員会議として時間短縮が達成された。	
								●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	○支援が必要な生徒に対する理解に努め、個々に応じた細かな対応ができる校内支援体制の構築	○意識調査で、保護者及び教職員の特別支援教育に対するプラス評価85%以上を目指す。	・個別の支援計画を作成し、特別支援会議やケース会議を適宜実施し、職員の共通理解のと、適切な支援の在り方を探していく。 ・夏季休業中に講師が招聘しての研修会を含め、特別支援教育等の生徒に対する適切な対応ができるようにする。	A	A	・個別の教育支援計画、指導計画に応じた支援の在り方についての研修を7月に実施。 ・生徒の状況等について、定期的に情報共有し、連携して支援を実施する。 ・講師を招いての研修会で実施しての研修会を実施し、保護者及び教職員の特別支援教育に対するプラス評価は94.3%と概ね高評価であった。
									●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育	○生徒・保護者の学校行事への参画意識の向上	○意識調査で、学校行事参画に対する生徒・保護者のプラス評価85%以上を目指す。	・生徒一人一人が役割を持ち、出番の機会が増えようとして検討し、それぞれの学校行事を実施する。 ・生徒会活動を中心に、「気づき、考え、行動する」を頭に置いていた指導を展開していく。	B	A
●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育										○学校教育目標の周知・徹底	○教育目標「自立の精神に満ちた豊かな人間性の育成」と重点目標について、職員会議等を利用して職員へ呼びかけ、それぞれの校務会議の中心で実現化を呼びかける。 ・職員会議資料やPTA役員会資料に学校目標を掲示する。	・学校評議会アンケート集計結果、生徒への周知度は99.1%、保護者への周知度は93.2%であり、学校教育目標、重点目標はおおむね達成できている。教職員の認知度は100%、校務分掌の中で現実化を図っていくことが課題。	A	A
	総合評価・次年度への展望									<p>●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育</p> <p>本年度の重点目標は、①「学ぶことの楽しさ」を感じる、魅力ある・わかる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切にし、将来の夢の実現を育む。③道徳を中心とした教育活動全般を通して、規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。の3点であった。</p> <p>①については、教職員間でマイプランを共有し、わかりやすい授業の実践に向けて取り組んだ。授業の導入段階では「めあて」を提示し、終末時には「達成振り返り」を行うことで授業で学んだことの定着を図ることで、90%を超える生徒が一人一人にわかりやすく教えてもらっていると考えられる。</p> <p>②については、人口減少の問題ではあったが、1年生は多良岳登山や福井体験、3年生は修学旅行等の実践を実施することができ、体験を通しての学習ができた。2年生は、福井体験は実施できなかったが、職業人としてのマナーや町内の生産者について調べて学習を行なった。今後も学年ごとに工夫しながら、保護者へ発信しながら、学校全体で「心の教育」に取り組んでいきたい。</p> <p>③については、担任を中心として学年職員会議で道徳の授業に計画的に取り組んだ。学年の掲示板にも掲示する様子や生徒の感想を掲示した。学生全体で「心の教育」に努めた。意識調査の最終結果、「心の教育に努めている」と肯定的に受け止めている生徒は97.4%、保護者は94.1%であった。今後も学年通信や学級運営を通して保護者へ発信しながら、学校全体で「心の教育」に取り組んでいきたい。</p> <p>今年度は、1回の丘陵登山と1回の学年旅行と併せて、校内開拓大会を実施して地元を誇り、生徒の元気な前向きな姿勢を育むことができた。</p>				